

タウ (TAU)



同社本社内の様子



船積みを待つ車輛群

「まだ走る」中古車を海外へ～地球環境保全に取り組む 中部水害時には迅速に冠水車を引取り



広報部の藤久拓也部長(左)と星野由紀さん

タウ(埼玉県さいたま市)は、事故や災害で損傷したダメーシカの買取・販売、輸出までを手掛ける企業。年間取扱台数は約3万台で、そのうち7割がロシアをはじめとするCIS(旧ソ連)地域を中心とした海外向けとなっている。ダメーシカー修復は

輸出先で行い再利用される。資源の有効活用を推進する同社のビジネスは、環境保全に貢献している。取扱商品は、ダメーシカーにとどまらず、産業機械、建機、ボート、ヨット、中古パーツと幅広い。現在ではネットを通じ世界88カ国と取引を行っており、日・英・露の3言語のWEBサイトを運営。今後も多言語化を進め、一層のユーザビリティ向上を図る方針。

強化に向け、整備工場や板金塗装工場との仕入特約店制度導入を始めた。また一般ユーザ獲得にも力を入れ、ネットやメディア向けPR活動を実施。仕入台数は順調に増加している。

本年8月末に発生した愛知県岡崎市を中心とした水害の際、同社では岡崎市内に臨時ストックヤードを設置。現地で査定を行い水没車両を買い取った。引き上げ総数は650台を超え、地域住民からは感謝の声が多くあがったという。